
涙を拭いて

R U I

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
涙を拭いて

【Nコード】
N0684B

【作者名】
RUI

【あらすじ】
うつ病に悩む一人の女の子、佐々木舞^{みづきまい}。たくさんの出会いと別れの中で人間を信じられなくなっていく舞の前に現れた一人の男性。その人の優しさや生きる強さにひかれていくが…

別れ

「おまえのこと好きだけど、付き合う自信はもつない」

一番聞きたくない言葉。それだったら嫌いって言われた方が諦めもつくのに…

「うん。ごめんね…今までありがとう」

ホントはそんなこと言いたいんじゃない！
もっと一緒にいたかった。
でも相手の気持ちもわかる。
誰だって好きな人がこうだったら…

うつ病だってわかったら…

親友

いつからだろう？

こんな風になったのは…

記憶にあるのは高校生二年生の夏。

なにがきっかけだったか覚えてないけど、夜眠れなくなっていった。親の仲が悪いわけではなく、裕福ではなかったけど、生活していく分には不自由はなかった。

その時恋人がいるわけじゃなかったけど、友達も多かったし世間で言われる

「平凡」

な生活を送っていた。

「……い、……まい、…舞ってば!？」

「えっ？なに!？」

「さっきから呼んでるのに、なにぼーっとしてたの？大丈夫？」

彼女の名前は春日 かすがたえ 妙。

私の病気を知り、気を使ってくれてる。

「うん。大丈夫。少し考え事してたの」

「なんかあったら言いなよ。無理したらダメだからね」

就職して二年。

この会社で出会った彼女は唯一の理解者。

いつも何かあると話を聞いてくれて、支えてくれる。

一人暮らしの私は夜眠れない時が多い。誰かが横で寝ていてくれれば安心できるんだけど…

違う友達にこのことを話すと、23にもなって、なんて言われたけど。

妙にその話をすると泊まりに来てくれる。

何度も何度も助けられた。

ただひたすら夜が怖い。

暗闇が恐怖に感じる。

だからといって電気をつけたまま寝ればいいってもものでもなく、太陽の光が恋しくなる。

「なんかやっぱり今日は変だよ！なんかあったの？」

「ちょっとね…」

「やっぱりなあ…じゃあ今日はご飯食べにいこうか！この美しいお姉さまが聞いてあげるわよ！！」（笑）」

妙は私より二つ上の25才。

ちなみに彼氏はいない。(笑)

って失礼か(^^;)

いつもこんな調子で私を励ましてくれる。
私にとってはまさに親友だった。

日常

とある居酒屋。

私自身お酒はあまり飲まないけれど、妙が大好きだからご飯を食べに行くとなると大体が居酒屋になる。

「それでどーした？」

私は前の彼氏とあったことを話した。

今まで病氣のことを隠していたからそれを打ち明けると、別れを告げられたこと…

「なんだそいつ！？最低だな！」

「でもなんとなく彼の気持ちも分かるんだ。自分の好きな人がそうだったら誰だってとまどうよ…」

「だからってそんな中途半端なこと言うかあ？ふざけてるなあ！どこのどいつだ？あたしが文句言ってやる！！」

「ちよつ、いいいいいよ！彼が悪いわけじゃないんだから」

「アンタってばホント優しいよねえ…まあそこが舞のいいところなんだけどさ」

そう言うത്妙は飲みかけのファジーネーブルを口にする。

いつも味方してくれる妙。

私が病氣だからかな？

違うよね？

そうじゃなくてもきつと妙は私の味方だよね？

トウルルル…

「あつ、友達から電話だ。ちょっと待ってて！」

妙は店の外に出ていった。

「はぁ…」

こうゆう店で一人は苦手…

「お待たせしましたぁ！」

その時店員さんがテーブルの上にオレンジジュースを置く。

「えっ？私頼んでませんよ？」

「サービスですよ！お姉さんあんまり楽しくなさそうなので。これ飲んで元気だして！」

そう言つとささつといってしまった。まだ大学生くらいかしら？よくお客さんのことみててえらいわね。

「どーかしたの？」

帰ってきた妙が話しかけてきた。

「ううん。何でもない」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0684b/>

涙を拭いて

2010年10月8日22時26分発行